

# せったん

北摂・丹波支部

第135号 2011年6月25日

発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
行 TEL078-393-1801 (代) FAX 078-393-1802



## 第23回支部総会のご案内

記念講演

### 日常的な治療行為が最高裁判所に

～医療機関におけるリスクマネジメント～

日時 7月9日(土) 総会・講演 午後6時～8時、懇親会8時～9時半  
会場 キッピーモール6階「講座室」 懇親会は「はな子」  
講師 米田泰邦法律事務所 弁護士 鵜飼 万貴子 先生  
参加費 無料 (懇親会：無料)

※お問い合わせは、078-393-1801・3 黒木・平井まで

## 兵庫県保険医協会

### 評議員・予備評議員(医科)選挙の告示

理事長 池内 春樹

協会規約第12条の2及び(細則)協会役員等の選出規定の第3条の2および第9条の1により、評議員・予備評議員(医科)選挙の告示を行います。

【役職と定数】 評議員 1名 予備評議員 1名

兵庫県保険医協会規約 第18条 「評議員は、各支部または歯科部会を代表し、会員の意見を評議員会に反映するとともに、本会の方針に沿い、各支部または歯科部会の活動の中心となる。予備評議員は、評議員を補佐するとともに、評議員会に評議員欠席の際には評議員として出席する。」

【任期】 2年

【改選日時】 7月9日(土)午後6時

於：北摂・丹波支部第23回総会/キッピーモール

【立候補日時締切】 7月2日(土)正午

【立候補届出の方法】 立候補希望者・推薦希望者(医科)は、協会事務局までお申し出ください。用紙をお届けします。「立候補届」「推薦届」に必要事項を記入の上、事務局へ持参または郵送ください。なお、歯科について歯科部会で選出します。

### 北摂・丹波支部役員選挙の告示

支部長 森下 順彦

(細則) 協会役員等の選出規定の第3条の3および第9条の2により、北摂・丹波支部役員選挙の告示を行います。

【役職と定数】 支部長 1名 副支部長 若干名 幹事 若干名

【任期】 2年

【改選日時】 7月9日(土)午後6時

於：北摂・丹波支部第23回総会/キッピーモール

【立候補日時締切】 7月2日(土)正午

【立候補届出の方法】 立候補希望者・推薦希望者は、協会事務局までお申し出ください。用紙をお届けします。「立候補届」「推薦届」に必要事項を記入の上、事務局へ持参または郵送ください。



手びねりで作品作りに挑戦

陶芸教室は、とても素敵な先生に教えていただくことができ、物を造ると言う楽しさを久しぶりに味わうことができ、心も癒されました。近くの丹波市に住んでいながら篠山のことはまだまだ知らないことに気が付き、これからもスタッフと遊びに行こうと思いました。

作品が焼き上がる日を楽しみです。日々忙しい日常の中で、毎回楽しい企画を作っていたいただき、ありがとうございます。今度も楽しみにしております。

【丹波市・わく歯科医院  
小林佐知子】

レクリエーション企画 第6弾!

## 新緑の虚空蔵山 立杭焼 ハイキング & 陶芸体験

北摂・丹波支部では、5月21日に三田市と篠山市にまたがる虚空蔵山のハイキングと立杭窯元での陶芸体験を企画、5人が参加した。当日はあいにくの雨風の荒天のため、ハイキングは中止し、立杭の県立陶芸美術館と「陶の郷」を見学したあと、陶芸体験を行った。

参加者の小林佐知子さん(丹波市・わく歯科医院)の感想文を紹介する。(兵庫保険新聞7月5日号掲載予定)

【感想文】

当日は楽しみにしていたのに、あいにくのお天気で残念でしたが、雨の日のプランも考えて頂いていたようで、美術館見学、陶芸の展示コーナーもとても楽しいひとときを過ごさせて頂くことができました。

陶芸教室は、とても素敵な先生に教えていただくことができ、物を造ると言う楽しさを久しぶりに味わうことができ、心も癒されました。近くの丹波市に住んでいながら篠山のこと

改定医療法対策 院内感染対策研修会 Part VIII

## 「外来における感染対策の基本とマニュアル作り」



33人が参加(三田市総合福祉保健センターにて)



ブラックライトで洗い残しを確かめる

北摂・丹波支部は、4月23日に「外来における感染予防対策の基本とマニュアル作り」をテーマに8回目の院内感染対策研修会を開催した。

講師の小川麻由美氏(済生会兵庫県病院感染管理認定看護師)は、感染対策の基本になる標準予防策(スタンダードプリコーション)について説明。中でも感染対策で手指衛生が最も重要として、手洗いの方法やタイミング等について解説した後、参加者が実際にグリッターバグ(手洗いトレーニング機器)を用いて手洗い後の洗い残しを体験する実習を行った。

また、医療法ですべての医療機関に作成が義務化されている院内感染対策マニュアルについても、スタッフが活用しやすいマニュアルを作成するためのポイントについて説明した。



会員訪問  
インタビュー④

# 「篠山を重症心身障害児者の 医療的ケアの拠点に」

篠山市 すぎもとポーン・クリニック

杉本 健郎 先生



杉本健郎先生 (診察室にて)

今回の訪問インタビューは、篠山市の杉本健郎先生(すぎもとポーン・クリニック)《小児科・小児神経内科》をお訪ねした。先生には支部が加盟している「篠山市の医療をよくする会」の活動へも医師の立場から多くの助言をいただいています。

―篠山でご開業されたきっかけをお聞かせ下さい。

杉本健郎先生(以下、杉本)

もともと篠山の出身で、中学・高校は三田まで通学してここで過ごしました。

その後、関西医大に進み、卒業後も2004年までずっと大学の小児科で働いたあと2007年末まで、びわこ学園(滋賀県にある重症心身障害児者施設)で施設長などを勤めていました。

開業したのはちょうど3年前、2008年5月です。父(宏先生)が医院を閉じてから7年以上経ち、継がないでいかなければいけないと思いましたが、いざ診療所が始まってみると、親父時代の関係者は来院せず、都市部から引越してきた人が主で、この場所に落下傘で舞い降りたような感じを持ちました。

しばらくは、ここで開業したのがよかったのかを自問自答する日が続きました。

―開業されてから3年が経過して、日々の診療で感じられることはありますか？

杉本 篠山は保守的な色合いが強いところですが、高校を卒業してここを離れてずいぶん時間が経ちましたが、基本的には変わっていないですね。

何も変わっていない文化、村社会、家族の縦社会が基本の小さな田舎「市」です。多くの小学校が1クラスです。何らかのハンディをもった子どもたちが、少なくとも生まれてから15年間は同じ関係性で生活しなければならぬ「しんどさ」に接すると、医者としての無力さを感じます。

―また、長年重症心身障害児の診療に携わってきておられますが、今後どのようなことを考えておられるのですか。

杉本 篠山にも、在宅でレスピレーターをつけていたり、手厚いケアを必要としている子どもがいます。

昨年新しく建て直された兵庫医大ささやま医療センターとも連携して、兵庫県内というより京阪神を視野に入れた重症心身障害児者の医療的ケアの拠点やレスパイトケア施設を篠山に作りたいという希望をもっています。

しかし、私一人の力ではなかなか出来るものではないので、行政



キッチンセットなど、つい触りたくなる木製の玩具がある待合室



176号線沿いに建つ、北欧デザインのクリニック

にも協力を依頼したりしていますが、まだまだ実現までには遠い道のりです。

―先生はご長男を交通事故で亡くされ腎移植をされたとのことですが、先日の15歳未満の子どもからの脳死心臓移植についてお考えのことはありますか

杉本 私自身今でも当時の決断にさまざまな葛藤を感じています。今回の件は、東日本大震災と時期が重なり、いわゆる美談として報じられています。ドナーとなつた中学生の亡くなるに至つた経緯や家族と病院や移植ネットワーク側とのやりとりも明らかにはされていません。今後注視していきたいと思っています。

―最後に、毎日お忙しいとは思いますが、先生の趣味というか、お休み時は何をして過ごされているのですか？

杉本 昔は、野球が好きで、小児科医局でキャプテン、キャッチャー、バッターは常に1番で仕切っていました。ゴルフ(HDC 17まで)、スキー(2級まで)もやりましたが、遅くに生まれた次男とよく映画や釣りに行ったりもしていました。

最近、土・日に講演や理事長をしている「NPO医療的ケアネットワーク」の会議や研修に出かけることが多いのですが、出先でその合間に近くの温泉にゆっくりつかるとでしようか。

今密かに「走ろう」「ジム通い」を画策していますが、なかなか実現できそうにないですね。

―お忙しいところありがとうございます。